

宮沢トシ「自省録」の取得について

令和4年は、宮沢賢治の妹トシ没後100年にあたります。岩手大学名誉教授の望月善次氏を中心とした実行委員会により記念事業が行われるなど、賢治研究において改めて賢治とトシの関係が注目されました。トシが記した「自省録」は、賢治の末妹クニのご遺族が大切に保管されてきましたが、この資料の重要性から、然るべきところで保管することが必要ではないかとのご意見がありました。このことを受け、所有者のご意向を伺ったところ、花巻市であれば譲ってもよいとのことでしたので、今回の取得に至ったものです。

資料名：宮沢トシ「自省録」
形態：縦164mm×横206mm 罫紙30枚
取得額：300,000円

▶宮沢トシ「自省録」とは

宮沢トシが日本女子大学を卒業してから1年近く経た1920（大正9）年2月に執筆されたもので、タイトルにある「自省」の対象となる時期は花巻高等女学校卒業間近の頃から、大学在学4年間を含め、1920年現在に至るまでの期間と考えられます。

内容としては、高等女学校時代に抱いた音楽教師への恋と挫折について振り返り内省するといったもので、トシが母校である花巻高等女学校に教師として赴任することが決まり、自分の内心を整理しておかなければならないという思いで書かれたものとされています。

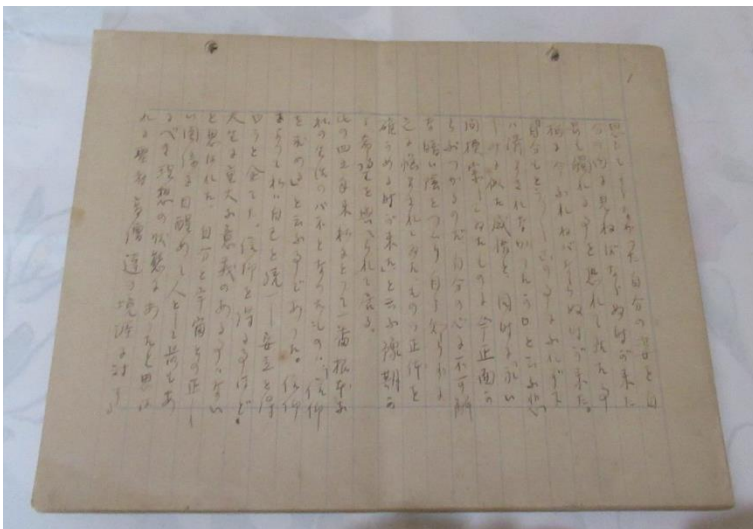
なぜ「自省」をしなくてはならなかったかの理由としては、当時、この出来事がある地方新聞にゴシップ記事のような形で掲載され、家族をはじめ周囲に迷惑をかけたこと、そして自らも心に深い痛手を負ったこと等と真摯に向き合い、母校の教師になる上で自身の信念を確認するといったものと思われま

す。なお、この「自省録」は宮沢淳郎氏の著書『伯父は賢治』（八重岳書房1982）において活字化され既に発表済みのものであり、新出の資料ではありません。

▶今後の活用方針について

トシは賢治の作品にも登場し、その生涯にも深く影響があったされる妹ですが、トシ自身は詩人、或いは童話作家というわけではありません。この「自省録」についても、あくまで一個人の私信であり、賢治についての直接的な関連を示すような記述はなく、評価については大きく分かれるものであるといえます。

今後の保管については宮沢賢治記念館で行い、公開等については宮沢賢治学会や関係者からお話しを伺い、検討していきたいと考えております。



宮沢トシ「自省録」



宮沢トシ
明治31（1898）年11月5日～大正11
（1922）年11月27日